



ハイビスカス

119 編は (アルファベットによる詩) と但し書きがあり、原典は同じ字母で始まる 8 節の段落が22のアルファベット順に続く詩編ですが、日本語訳ではヘブライ語のアルファベットを捕らえることはできません。

冒頭に いかにかに幸いなことでしょう／まったき道を踏み、主の律法に歩む人は。(1) とあり、律法を守ることを勧める教訓詩とのことです。律法に向き合う詩人の感じていること、心の思いに注目して、順を追って読みたいと思います。

文字		イメージとなる聖句
12	ㄐ ラメド	とこしえに御言葉は天に確立し／信仰は代々に続き／何事にも終りと果てがある
詩人は主の御言葉は永遠であるゆえに、主への信仰は代々に続き、それを受けて地も固く、忍耐して支えると言います。しかし人のすることには終わりがあり、戒めこそ不滅であると告白します。		
13	ㄑ メム	敵よりも知恵ある／あらゆる師にまさって目覚め／長老たちにまさる英知
詩人は律法を深く愛し、とこしえにわたしのもの(98) と言います。最高の英知を与えられるのは、神が教えてくれるからだと言います。悪の道、偽りの道を憎み、避けられると言います。		
14	ㄒ ヌン	あなたの御言葉は、わたしの道の光 わたしの歩みを照らす灯(105)／それでも
105 節の言葉は私の愛唱聖句でもあります。わたしの魂は常にわたしの手に置かれています(109) は主が人を自由な魂を持つ存在として創造されたことの告白です。自由であっても、また、主に逆らう者の畏があっても、それでも、詩人は主に従って喜んで歩むと告白します。		
15	ㄓ サメク	悪事を謀る者よ、わたしを離れよ／あなたを恐れてわたしの身はすくみます
詩人は掟から迷い出る者、主に逆らう者がことごとく打ち捨てられ、金かすのように断ち滅ぼされたのを見たゆえに、裁きを畏れ、律法を守れるように支えてくださいと心から願います。		
16	ㄔ アイン	わたしは正しい裁きを行います／あなたの僕の保証人になってください／あなたの僕のために計ってください
詩人は裁判に関係する人だったかもしれません。詩人は高齢となり、弱さを覚えつつも、謙遜で、何よりも律法に従います。主に背を向ける人々に主の掟に従って裁きをしたいと苦闘しています。		
17	ㄕ ペー	御言葉が開かれると光が射し／わたしは大きく口を開き／御顔をわたしに向け／わたしの足どりを／御顔の光をあなたの僕に／わたしの目は川のように涙を
詩人は律法の書を開くと光を受けるほど感性豊かです。口にも律法を入れ、パンとして全身で受け止め、しっかり歩みたいと願います。けれども律法から離れている人々を思い、泣いています。		

『讚美歌 21』は <ラメド>から<ペー>まででは 9 曲をあげ、そのうち、55「人となりたる主の言葉」 <https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2012-08-13> を 2 回あげています。原旋律は 17 世紀マイニンゲン讚美歌集にあり、メンデルスゾーンにより合唱曲となりました。詞は「貧しい人の主教」と呼ばれた著名なイギリスの讚美歌作家ウィリアム・ハウ(1823-1897)です。